

独龍江への道のり

瀬流の怒れる河「怒江」、そびえ立つ「高黎貢山脈」。大自然が私たちを迎えてくれます。



川の西岸をつなぐ「本のロープ」「リウスコ(守護)」に参加者も挑戦し、怒江を渡りました



1年前の授業が片途絶間の手によって本になりました
それを両手で持つことで喜びと感動の大喜び!



独龍江公路は独龍江郷と外部をつなぐ唯一の道



80歳の老翁専務理事が、リウスコに挑戦!



弟や妹の子守りはもちられ、学校に通いながら家の農作業も手伝うのは当たり前の事



独龍族の暮らし

独龍江の民が生活しているのは高床式の家。子供たちは弟や妹を小さな背中にのせて子守をしたり、頭から荷物を下げてお手伝いします。



独龍江では荷物を頭から下げる人々の姿が良く見られる



ようこそ
独龍族へ!



二千年前から暮らす
ひときわいい民族を
のぞかせてくれた男の子

参加者みんなで記念に「笑顔撮影!

巴坡小学校

新しい校舎・宿舎が完成し、子供たちの学習環境は改善されました。開校式で見せた子供たちのまっさらな笑顔と同じ、ひかひかの校舎です。



日本外務省のODA支援を受け、12月に完成したひがひがの校舎



開校式、子供たちも精一杯のおもてなし
暖かく迎える宿舎も誇らしく輝かざました

暖かい村人の気持ちが伝わった
第15校目木杆小学校開校式

第15校目木杆小学校開校式



上)開校式でテープカットする初鹿野理事長
下)新校舎の前で式典参加者が集合しました

2007年8月21日、雲南省北東部にある昭通市の大閣鎮という地域に、新たな小学校が誕生しました。協会支援として第15校目にあたる本校は、少数民族ミャオ族(苗族)の小学校で、2006年に発生した大地震により校舎が倒壊、急遽今年度の支援が決定しました。当校の建設は、九州の法人会員・西部ガス株式会社の資金支援と、同じく法人会員である四日市大学の留学生や、暁高等学校・川越高等学校の生徒が中心となりました。何ヶ月もかけて集めた募金(1,117,897円)により、実現しました。当日、開校式には、初鹿野惠蘭理事長はじめ、日本側から6名の皆さんが参加しました。

昭通市まで飛ぶはずの飛行機が遅れ、式典の開始が大幅に遅れるトラブルに見舞われながらも、会場では児童、地元ミャオ族の村人たちが、歓迎の拍手で出迎えてくれました。日本人がこの地域に入るのははじめてのこと、子供たちは照れくさそうに、隠れてしまっていましたが、親や村の人たちはよく話しかけ、暖かく接してくれました。この式典のために朝日がまだ出でていないうちから山を越えて会いにきてくれた人もいました。

残念ながら開校式典には出席がかなわなかった、法人会員・西部ガス株式会社の代表取締役会長・平山良明様に代わり、現地パートナーの雲南省帰国華僑聯合会・李巨濤副主席から、事前にお預かりした文書が読まれる場面もありました。

山から梨を背負ってきて、持って帰ってほしいと笑顔で語りかけてきた村人。自分たちが採ってきたとうもろこしを煮込んだものや、子供たちのメッセージが添えられた水煮たけのこを用意してくれた親や学校。帰りを見送ってくれた現地村人が「一路平安(徳の光)」を歌ってくれたこと。すべては子供を思う親たちの、現地の村人たちの、精一杯の感謝の気持ちです。

【現地協力者】雲南省帰国華僑聯合会副主席・李巨濤、何飭平、昭通市(帰国華僑聯合会・教育局)他多くの皆さん
【日本・雲南省聯合会からの参加者】鶴清史会員、佐藤信行会員、佐伯義博会員、川口幸二会員、初鹿野惠蘭理事長、東京本部スタッフ・七田怜



四日市大学 佐藤さん、子供にバスケットボールのバス!



ミャオ族の衣装を身につけて開校式に駆けつけてくれた親子

次年度建設事業候補
臨滄市の4つの小学校を視察

2007年7月、次年度支援候補校の視察のため、東京本部七田と雲南支部林郷が、雲南省臨滄市の少数民族貧困地域にある4つの小学校を訪問しました。臨滄市は雲南省の西南部に位置し、ミャンマーと国境を接しています。双江ラフ族ワ族ブーラン族タイ族自治州を擁す、省内でも民族色が一際濃い貧困地域です。

視察時期は雨季。道路状況が悪かったために、予定していた小学校の視察ができないとなるトラブルもありましたが、現地パートナーの債務弁公室が他の地区を選定するなど迅速に対応してくれたことで問題は消えました。

視察した4つの小学校で共通していたのは、山岳地帯の気候特有の湿気により、古い木造校舎の柱が大きく変形をしていたり、教室内の天井や壁が剥がれ落ちていた点です。雲南省では、こういったひどい環境におかれている学校と、そこで危険と隣りあわせで生活する子供たちの姿を至る所で目にするのですが、このような状況を全て改善するためには、一体あどどれだけの時間が必要なでしょう。

一方で、小学校では現地の人たちが状況改善のために努力している姿も見ました。校庭に先生たちがお金出し合って家畜小屋を建て、そこで豚、鶏を飼っているのです。大きく育てて売り、学校の経費にするそうです。

今回の視察を受け、再び協会で検討を重ね、支援校を決定することになりますが、またそのお知らせは後日したいと思います。

【現地協力者】雲南省債務弁公室 処長・張鵬、雲南省帰国華僑聯合会・臨滄市債務弁公室 副主任・陳永記、臨滄市鳳慶県・雲県(教育局、帰国華僑聯合会、婦人聯合会)、臨滄市臨翔区人民政府、学校関係者他 多くの皆さん
【視察メンバー】東京本部スタッフ 七田怜、雲南支部スタッフ 林郷



天井が剥がれてしまった教室

視察後、教室での関係者話し合い

夏休み前のテスト期間でした

第7回 チャリティ忘年会大盛会

2007年12月21日、「第七回チャリティ忘年会」が大盛況のうちに閉幕しました。

会場は、サッポロホールディングス株式会社 岩間辰志名譽顧問（協会顧問）のご紹介で、東京恵比寿ガーデンプレイス内にあるお洒落なバー「ビアステーション恵比寿」。当日は、予定を上回る90名以上の方々にご参加いただき、会場は賑やかな笑い声に包まれました。

忘年会は、片岡義久顧問の挨拶で開幕。1ヶ月に片岡顧問ご自身も参加した「支援第16校目巴崎小学校開校式（怒江リス族自治区独龍江）」の珍道中を、ユーモアたっぷりに語ってくださいました。続いて、協会を代表し、初鹿野恵理子理事長から皆さまへ、一年間のご協力に対する感謝が述べられました。協会を陰ながら支える役員顧問を紹介する場面もあり、会場からは温かな拍手をいただきました。ご来賓の挨拶では、日本財團 大野修一常務理事から、6月にシャングリラで開校を迎えた「支援第13校目共草小学校」、「第14校目阿谷中央小学校」（日本財團アジア教育友好協会資金協力）に参加しての感想が語られました。

アトラクションとして、第16校目巴崎小学校のVTRを交えたスライドショーや、恒例のビンゴゲーム大会も開催しました。雲南省開運の景品や、法人会員ご提供の品々を大放出！ チベット族の衣装を見事に着こなした会員の峰尾勝美さんによる司会のもと、次々と「bingo！」の声が上がり、会場の空気は一気に加熱しました。続いて、



会員の丁勇軍さんによる花腰イ族の伝統舞踊講座では、煙盒という手持ちの太鼓を指で鳴らしながら、全員が一丸となって華麗なステップを刻みました。

そして今回は、協会の教育支援活動の過去7年間を振りかえり、「50の小学校プロジェクト」学校建設資金として大口の寄せ付をいただいた皆さまへ、せめてもの感謝の気持ちを伝えたく、感謝状の贈呈式を行ないました。本来ならば、当協会の活動を支えてくださっている会員・支援者の皆さま全員にお渡しすべきところですが、当日ご出席いただいた6名の方に、代表して感謝状を受け取っていただきました。協会をいつまでも温かく支えてくださっている会員・支援者・ボランティアの皆さまに対しましても、この場を借りて、改めて御礼申し上げたく思います。

初参加の方も多かったのですが、最後には、まるで昔からの知り合いのように打ち解けあい、全員が再会の約束をして、素敵な忘年会となりました。

なお、今回の忘年会会費のうち、チャリティ企画として、一部を雲南省の子供たちへの教育支援金とさせていただきましたことをご報告いたします。

【ご協力くださった皆さま】（順不同・敬称略）株式会社技術評論社／サッポロホールディングス株式会社／JR東海労働／株式会社DNP映像セントラル／NPO法人地域映像ネット／アートボーナス／株式会社日本育児／株式会社ヨシヅヤ／（同会員）近藤勝美（ビゴ進行）、丁勇軍（花腰舞）、峰尾勝美（ビゴ進行）、高峰千代美、吉村和也、VTR制作成、安達武史（ハワード・ポイント作成）、安達知子、珠木暁、鈴木健輔、林由紀、狩野千秋、小出和夫、小林朋子、星野恵理子、初鹿野恵理子（ビンゴゲーム景品協力者）／NPO法人21世紀のカンボジアを支援する会、株式会社ウエストン、日本ケイエム交易株式会社、アシストエース株式会社、峰尾勝美

7年間のご支援に感謝を込めて… 今回の忘年会では、当協会「50の小学校プロジェクト」に対して、学校建設資金の大口ご寄付頂いた方々を、会員・支援者の代表とさせていただき、初鹿野理事長より感謝状をお渡しました。



第2校目小学校資金協力者
中村有里子協会理事

第5、9、11校目小学校資金
協力者 NPO法人天真会・青
木宏之理事長（協会顧問）、吉田
晶子事務局長、中谷裕子理事

第6校目小学校資金協力者
JR貨物労組に代わってJR
東海労・萩原光廣委員長

第10校目小学校資金協力者
横口利治協会顧問
また支援金第15校目小学校資金
協力者の西部ガス株式会社様
の代理として

第12校目小学校資金協力者
北原茂実協会理事

日頃から協会の活動を多方面か
ら支えてくださっている株式会
社技術評論社・片岡蔵社長（協
会顧問）

秋の3つのイベントに 参加しました！

2007年9月末から11月にかけて、当協会は3つのイベントに参加し、スタッフもボランティアも準備と運営に大わらわでした。そのどのイベントでもボランティアたちが協会を元気一杯にごビールし、大いに盛り上げてくださいました。

9月29日に行われた「世界へ未来へフェスティバル」では、協会オリジナル料理「雲南燶」を調理・販売する这样一个新しい試みを行いました。スタッフは、ボランティアお手製のお揃い、「トンバ文字Tシャツ」を身につけ、頑張りました。「のぼり」の効果があつてか、大勢の人がこの珍しい食べ物を見てみよう、次から次へと押し寄せて、あれよあれよといろいろうちに完売となりました。

10月6、7日には、今年もグローバルフェスティバルJAPAN 2007が東京目比谷公園で盛大に開催され、協会ブースでは、ボランティアが色とりどりの民族衣装に身をつつみ、協会の活動をたくさんの方に紹介しました。2日間とも大変やかなる秋晴れに恵まれ、このフェスティバル来場者は8万人を数えたそうです。

11月18日、こちらも毎年恒例となった、八王子いちょう祭に出席しました。ボランティアリーダーで八王子在住の峰尾会員を中心、多くのボランティアに手伝つていただいたおかげで、特にブース内雲南省の手作り雑貨に来場者からの人気が集中し、大好評を得ました。

以上の3つのイベントでの収益金は232,541円でした。ご協力いただいた多くの皆さま、ありがとうございました。



★ボランティアの皆さま（敬称略・順不同）★

峰尾勝美、井上祐子、大須賀敏恭、丁勇軍、安達史夫、陸欣研、近藤勝一、王静君、小野彌、木村由利枝、吉村昌智、大塚由子、寺内明子、猪俣信君、羽庭樹仁、跡木翠、師清史、胡麗華、黎理事、初鹿野道子、初鹿野恵理子理事長、東京本部スタッフ（七田、狩野、清野）【投入被服協力】JR東海労（協会法人会員）、山口正（NPO法人21世紀のカンボジアを支援する会）【被品準備協力】JR総連（協会法人会員）、山口正（NPO法人21世紀のカンボジアを支援する会）【被品準備協力】JR総連（協会法人会員）、山口正（NPO法人21世紀のカンボジアを支援する会）【被品準備協力】JR総連（協会法人会員）

【被品協力】小島（家主）その他、多くの皆さまにご協力をいただきました、非常感謝！

活気溢れる名古屋の風に乗って 名古屋支部設立

2007年8月26日、日本国内2番目の支部となる「愛知名古屋支部」が、新たに誕生しました。名古屋支部の支部長は、以前から協会の活動に大きなご協力をいただいていた、近藤鶴一さんが名乗りを挙げてくださいました。協会の開催イベントに来たことのある方ならご存知かと思いますが、近藤支部長は焼き物作りに力を入れており、イベントでも度々、麗江少数民族ナシ族のトンバ文字をモチーフにしたタンブラーをチャリティ販売してきました。今回の設立会は、画廊「じんがら」で、近藤さん開催の陶陶によわせて行なわれました。今後、活気あふれるこの地で、名古屋支部がどんな活動を開いてゆくのか、楽しみですね。



大宮支部で、中秋晩会を開催

2007年9月22日、埼玉大宮支部創設後はじめての主催イベント「中秋晩会」が、上尾市文化センターにおいて開かれ、80名の方々が来場しました。寺内明子支部長から皆さまへのご挨拶で会が幕開けとなり、「オカリナ」演奏、「琵琶とギター」演奏と進み、中秋の名月を彩る軽やかな音色に、会場は大いに盛り上がりました。用意されたテーブルには、ボランティアの皆さんは朝早くから準備した餃子、月餅、唐揚げ、ゆで落花生、梨や葡萄等のフルーツや各種飲み物、そして大宮支部の自慢、雲南省出身の支部長による特製雲南省名物麺「米線」など、盛りだくさんの料理が並べられました。実りの秋を前に皆が集まり、月餅を食べ、幸せで円満な生活を祈ることができました。



ギターの美しい音色が会場を
優しい雰囲気に包みました

協会支部通信

協会トップニュース

日中国交正常化35周年祝賀会 民間から繋げる友好の架け橋

東京 2007年9月25日・・・文化交流

2007年9月25日、中国の建国記念日を祝う「中華人民共和国建国58周年祝賀会」(中国駐日大使館主催)に、協会を代表して初鹿野理事長が出席しました。

昨年は日中国交正常化35周年の記念すべき年でもあり、会場となった赤坂プリンスホテルには、千人を越える各大使、日本の政治家が集い、例年以上の賑わいを見せました。この日は、福田内閣が誕生したばかりとあって、特に大勢の政治家が出席し、日中の新たな友好関係を築く場となつたようです。協会としても、今後も民間組織として、両国の友好関係がより深く、親密になることを願いながら、地道で誠実な活動を続けてゆきたいと思います。



日中の国旗の前で初鹿野理事長

よさこいの地・高知にて 高知高専文化祭で生徒が募金活動

高知 2007年11月10、11日・・・文化交流

こんにちは！ 高知高専の教員で、協会会員の高野です。昨年11月の学園祭において、日本雲南聯誼協会の活動紹介をさせて頂きました。高知高専のミニ紹介も絡めて、報告させて頂きます。

南国士佐、高知龍馬空港に隣接して私たちの高知高専があります。東に物部川、南は太平洋、校舎から弓形に盛り上がった水平線が見えるまほろばの里で、15～20歳の800名の若者が未来のエンジニアを目指して学んでいます。20回目の記念となる高専祭「星瞬（せいしゅん）祭」と命名して、多くの校外団体との新しい取組を始めました。日本雲南聯誼協会の活動紹介もその一つです。文化局長のS君をリーダーに、写真展示・トンバ文字クイズ・募金活動（活動紹介）等の準備を始めました。東京本部からお借りした写真、HPからの情報収集、勉強しながらのクイズ作成、お陰様でクイズの賞品は完売、募金箱には千円札も含めて14,162円預からせて頂きました。

小さな一步から、よさこい祭りのように少しずつ活動の輪が広がれば・・と思っています。皆様の活動の飛躍の予年となりますように祈りを込めて筆を置きます。

(高知高専教員・協会会員 高野弘)



机とイスを届けよう!
募金

お陰様で目標達成!
ご協力に感謝いたします。

当協会で昨年校舎の建設支援をした、チベット族の「第13校目共卓小学校」「第14校目阿央谷小学校」、ミャオ族の「第15校目木杆林区小学校」では、子供たちが勉強するための机とイスが不足し、困っていました。そこで、子供たちの手に250セットの机とイスを届けるべく、当協会から会員や協力者の皆さまに緊急募金の協力を呼びかけたところ、スタッフの予想を大きく上回る反応をいただいて、無事に目標の70万円を越す、885,845円を集めることができました。

2008年1月5日に、初鹿野理事長が協会を代表して、3校への支援金を雲南省に届けましたので、ここに報告いたします。

ご協力をいただきました皆さまに感謝申し上げます！

ご協力ください

NPO法人日本・雲南聯誼協会では、中国雲南省の貧困少数民族への小学校建設・フォローアップ支援を柱とした活動をしています。当協会パンフレットや会報バックナンバー、入会のお申し込みについては協会東京本部(本誌表紙の上部をご参照ください)までお気軽にお問い合わせください。

募金の振込み先は以下の口座となります。郵便振替口座は、専用払込票をご用意しておりますのでご入用の方は東京本部までご連絡ください。皆様からの暖かいご支援・ご協力を待ちしております。

日本雲南聯誼協会(ニホンウンナンレンギョウカイ)宛
■三菱東京UFJ銀行 目黒駅前支店 1300380
■郵便振替口座番号 00100-8-610935

雲南省ってどんなところ？



雲南省は中国最西南部に位置し、ミャンマー、ラオス、ベトナムと国境を接しています。面積は約39万km²(日本とほぼ同面積)、人口約4300万人です。土地の94%が山地で、海拔76mの河口から6740mの梅里雪山という高山も存在する特色豊かな地域。世界遺産登録地も多く、最近では観光面からの注目を浴びています。

協会の今後の活動予定

- 2/15 片岡巖顧問、日本商工会議所にて「雲南省の魅力」講演会
- 3/8 初鹿野理事長、民俗経済学会にて「雲南省の少数民族」講演会
- 3月中旬 次年度会費のお願い書の送付(会員)
- 4/11～20 初鹿野理事長、雲南省出張
- 4/22～27(予定) 第二回初鹿野忠蘭写真展を東京・恵比寿にて開催
- 5/25～6/2 第1回目小学校開校式ふれあいの旅